

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

2026年6月30日

株式会社イーディーピー

東証グロース（証券コード:7794）

# 本資料の取り扱いについて

- ・本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれております。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があります。
- ・これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られた若しくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- ・本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。
- ・本資料のアップデートにつきましては、今後、定時株主総会終了後(毎年6月下旬予定)に開示していく予定です。

# 目次

- 1) 会社概要 (ビジネスモデル)
- 2) 事業環境
- 3) 当社の特徴と強み
- 4) 中期経営計画 (成長戦略)
- 5) まとめ

# 1) 会社概要（ビジネスモデル）

# 会社概要

社名	株式会社イーディーピー		
代表者	代表取締役社長 藤森 直治、代表取締役副社長 高岸 秀滋		
設立年月	2009年9月8日 産総研発ベンチャー第100号		
本社所在地	大阪府豊中市上新田4丁目6番3号		
工場	横江工場、島工場		
資本金	22億9,546万円(2026年3月31日現在)		
役員構成	代表取締役社長 藤森 直治	常勤・社外監査役 岡田 宗久	
	代表取締役副社長 高岸 秀滋	社外監査役 大松 信貴	
	常務取締役 林 雅志	社外監査役 大塚 仁	
	社外取締役 光田 好孝		
	社外取締役 榎 徳子		
事業内容	ダイヤモンド単結晶及び関連製品の製造、販売、開発事業		
売上規模	5億1,655万円(2026年3月期)		
従業員数	71人(パートタイム、派遣社員等8人を含む)(2026年3月31日現在)		
総資産	25億1,036万円(2026年3月31日現在)		
主要取引先	インド、米国等のLGD製造メーカー、宝飾品店 ダイヤモンドデバイス関連企業、エレクトロニクス関連企業、理化学機器企業 産総研等国内外の公立研究機関、京大、アリゾナ州立大等の国内外の大学		

# イーディーピーとは

## EXCELLENT DIAMOND PRODUCTS

優れた特性を多く持つ、ダイヤモンドの応用製品で、  
社会的な課題を解決

高品質、大型のダイヤモンド単結晶製造技術

エレクトロニクス応用へ向けて、  
大量生産に適用できる  
ダイヤモンド素材を供給

ダイヤモンドも人工宝石へ  
置き換わる時代が迫っている  
種結晶ビジネスを開拓

大型ウエハや各種のエピ  
成長基板(注)で市場を創造

種結晶や宝石、宝飾品の販売

注: 通常のダイヤモンド基板上に薄い成長層を形成した製品

# 設立背景と創成期の状況

※

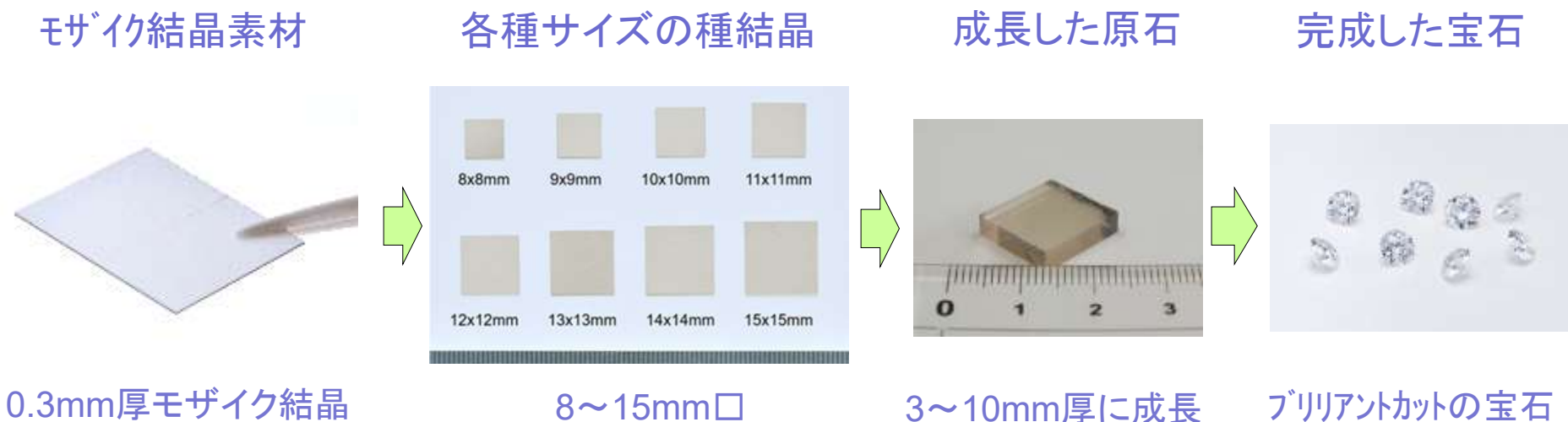
- ◆産総研で開発した大型単結晶ダイヤモンド技術を、スピンアウトベンチャーとして実用化を目指した。
- ◆ダイヤモンドをパワーデバイス等の半導体としての応用に使用するためには、大型ウエハが必須で、その開発を期した。
- ◆設立後直ちに既存市場があった工具素材の出荷を開始し、大型の基板も研究開発用途に実用化した。
- ◆2012年から人工宝石用種結晶ビジネスが急速に立ち上がり、量産技術の開発と、設備投資によって、売上が増加。工場の新設などの拡張を順次進めた。
- ◆基盤技術である産総研出願特許は、独占実施契約を締結

※ 産総研：国立研究開発法人産業技術総合研究所

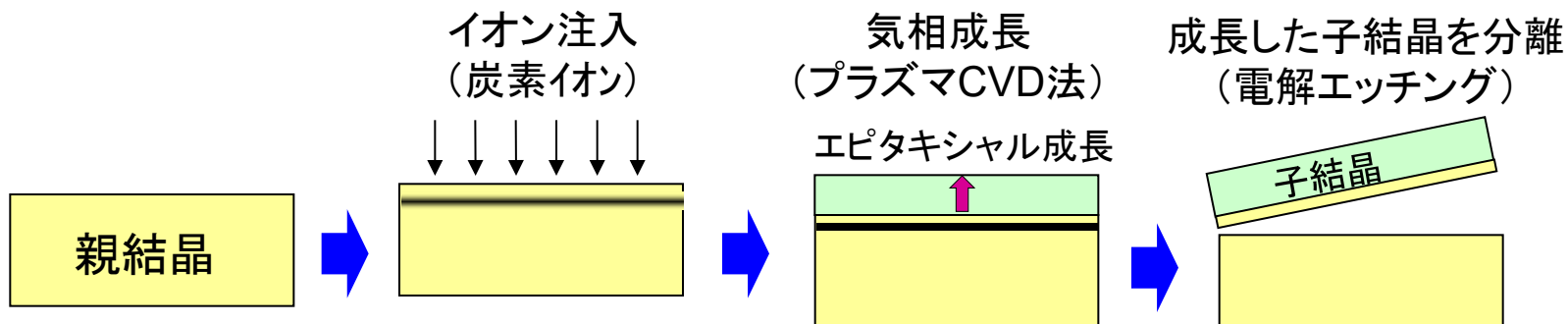
# 人工宝石(LGD)の普及が急速に進む

## LGD: Laboratory Grown Diamond(研究室で育てたダイヤモンド)

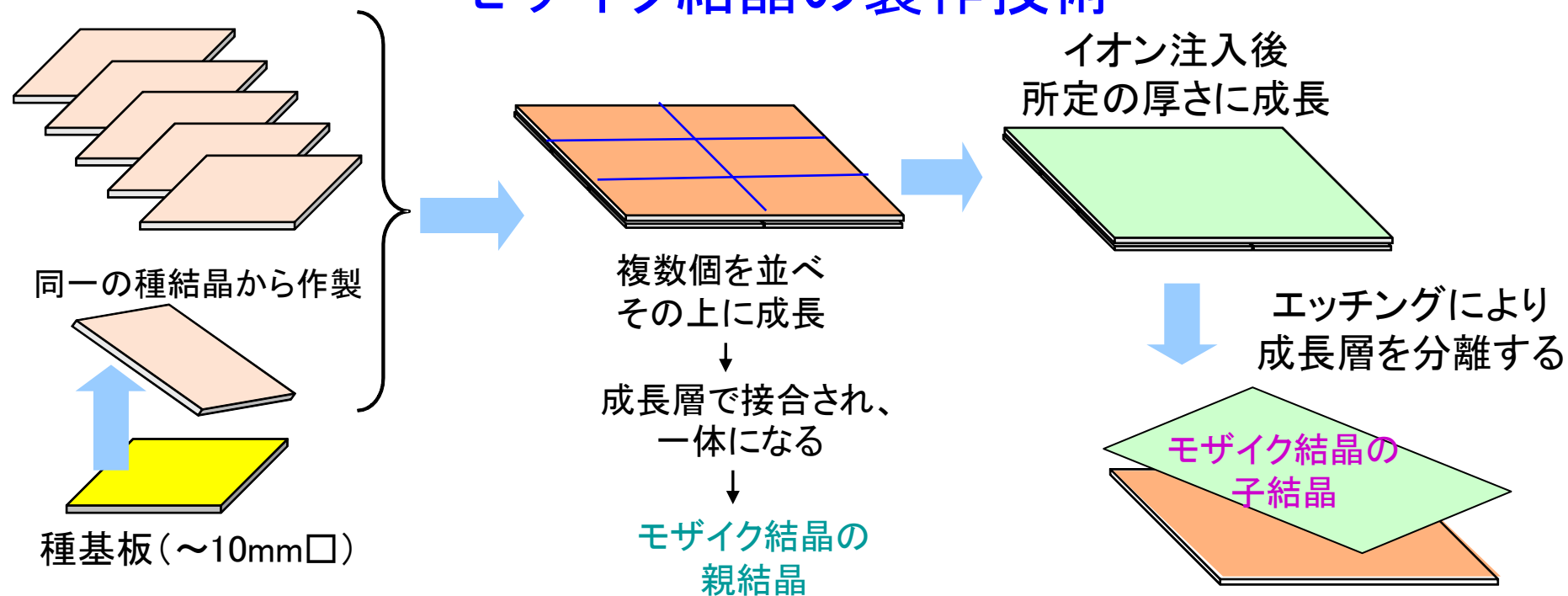
- ◆天然ダイヤモンドの持つ負の側面がないLGDは、SDGsの観点から世界中で受け入れられている。
- ◆数年後には、ダイヤモンド宝石の半分以上がLGDに置き換わると想定
- ◆LGDの気相合成による製造に必須の原料である「種結晶」は、当社が世界に先駆けて発売し、高品質種結晶と評価されている。



# EDPの薄板ダイヤモンド単結晶の製作技術



## モザイク結晶の製作技術



# 当社の技術体系



13件の基本特許出願

独占実施権の付与



## 主要な基礎技術

- ◆イオン注入による子結晶の分離技術
- ◆複数単結晶を接合したモザイク結晶技術

## 量産技術開発

- \* 高速分離技術による大型結晶の大量製作
- \* 大型モザイク結晶の開発
- \* モザイク親結晶大量保有

## 製品化

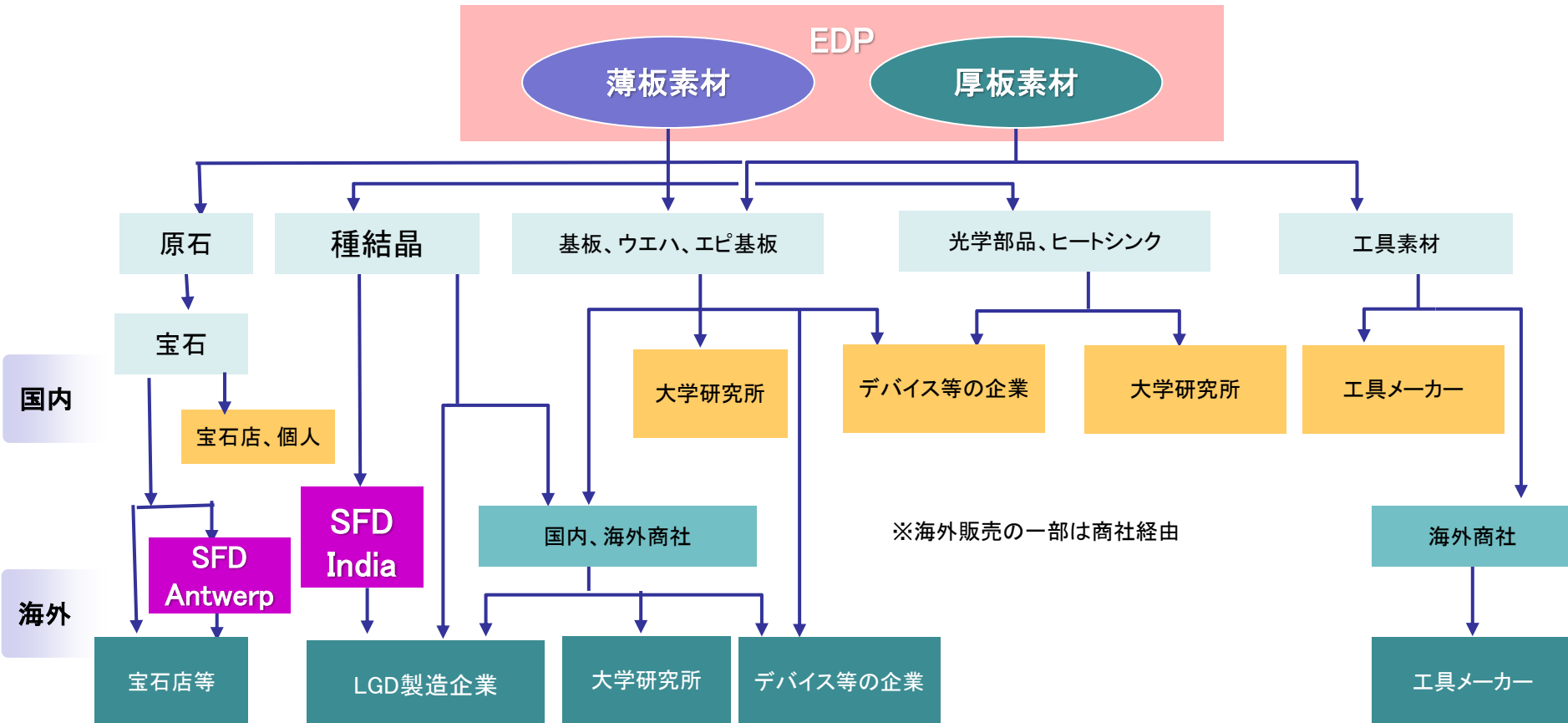
- ・デバイス用ウエハ
- ・LGD用種結晶
- ・X線等の光学部品
- ・ヒートシンク

- ◆イオン注入による分離技術を使って、直接薄板単結晶を製作する、世界唯一の企業
- ◆ダイヤモンドの特性を生かす各種の応用に、高品質で安価な製品を大量に製作できる。

# 当社の事業フロー

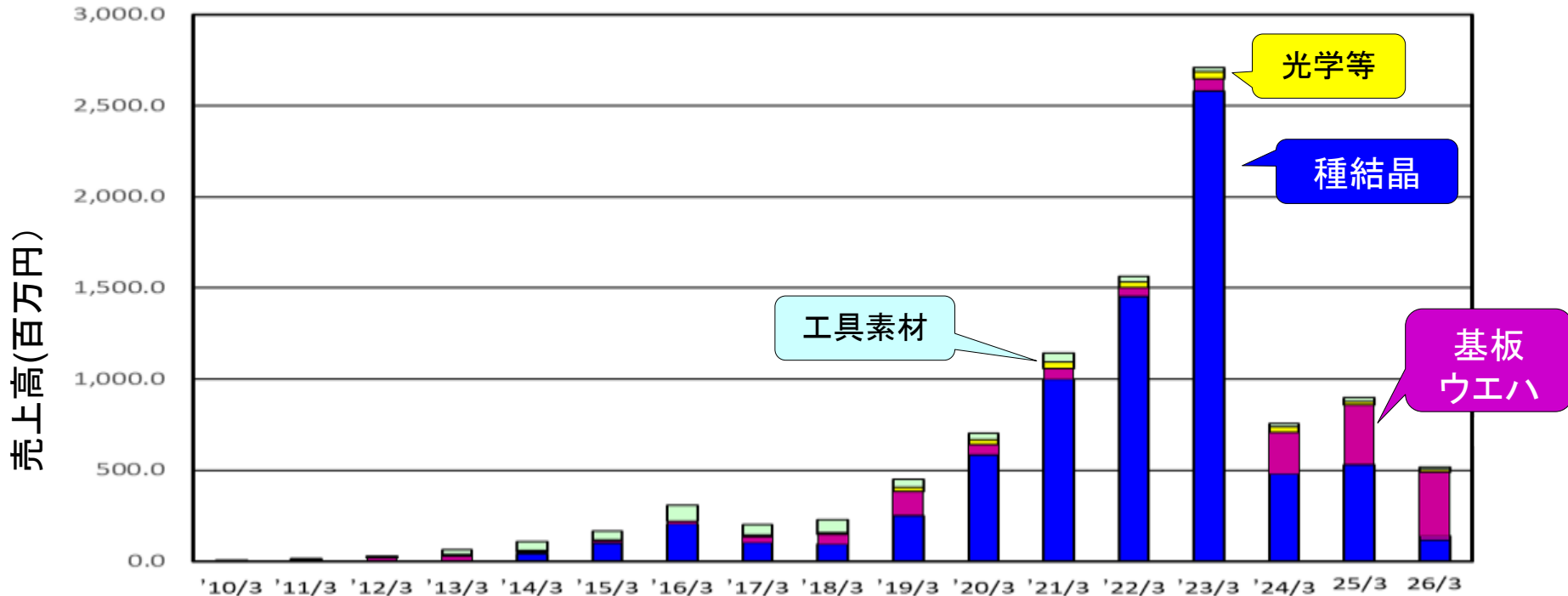
▶ LGDの元となる種結晶をはじめとした主要製品を製造し、LGD製造企業や大学研究所、デバイス等の企業へ販売

## 事業フロー



# 当社の軌跡

- 産総研で開発した大型単結晶ダイヤモンド技術を実用化する目的で創業
- 2012年から人工宝石用種結晶ビジネスが急速に立ち上がり、急速に成長
- 一方、ダイヤモンドデバイスの進展を見越し、基板・ウエハにも積極的に開発投資を実行
- 2023年3月期の終盤から種結晶市場が大幅に縮小し、売上が減少
- 種結晶ビジネス偏重のビジネス構造からの脱却を目指し、改革が進捗中

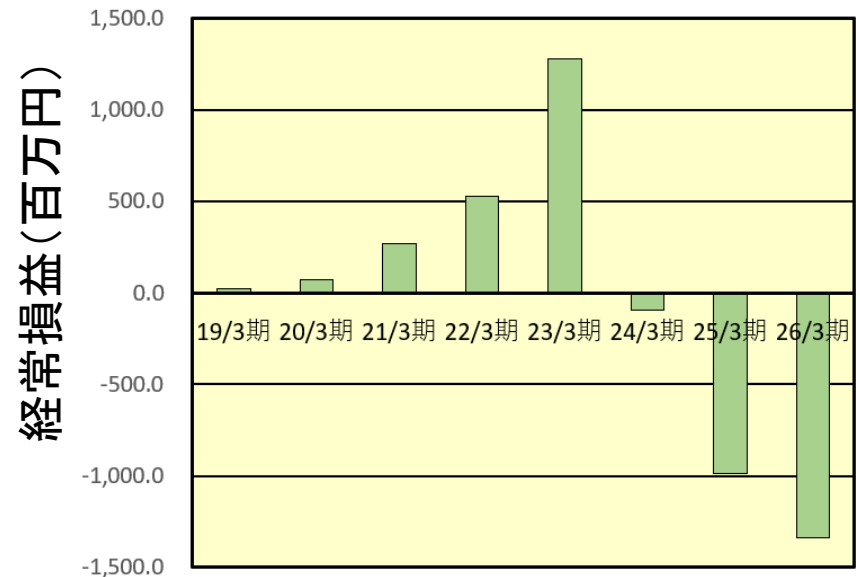
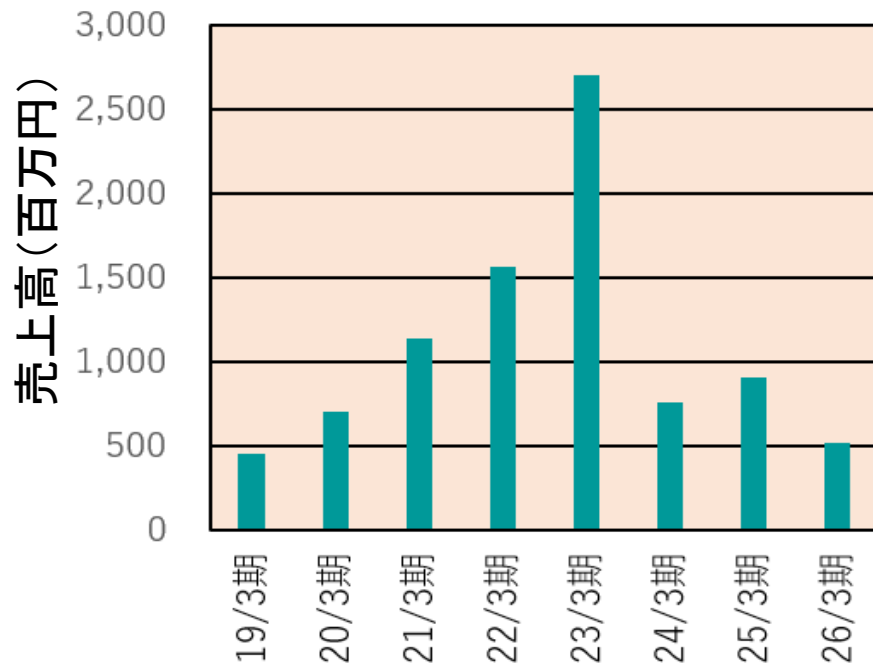


# 2026年3月期までの当社の軌跡

- 2009年 9月創立、基板等を発売、産総研発ベンチャー100号の称号
- 2012年 **種結晶の本格的発売**  
25x25mmモザイク基板の発売
- 2015年 横江工場の稼働(旧称第1工場)  
産総研特許の独占実施権取得
- 2016年 大学発ベンチャー表彰で内閣総理大臣賞を受賞
- 2017年 10x10mm種結晶の発売
- 2022年 **東証グロース市場へ上場**  
島工場の稼働
- 2024年 エス・エフ・ディー株式会社(以下、「SFD」という。)の設立  
SFD India Priv. LtdとSFD Antwerp BVの設立
- 2025年 30x30mm単結晶基板、1インチウエハの発売
- 2026年 SFDを吸収合併

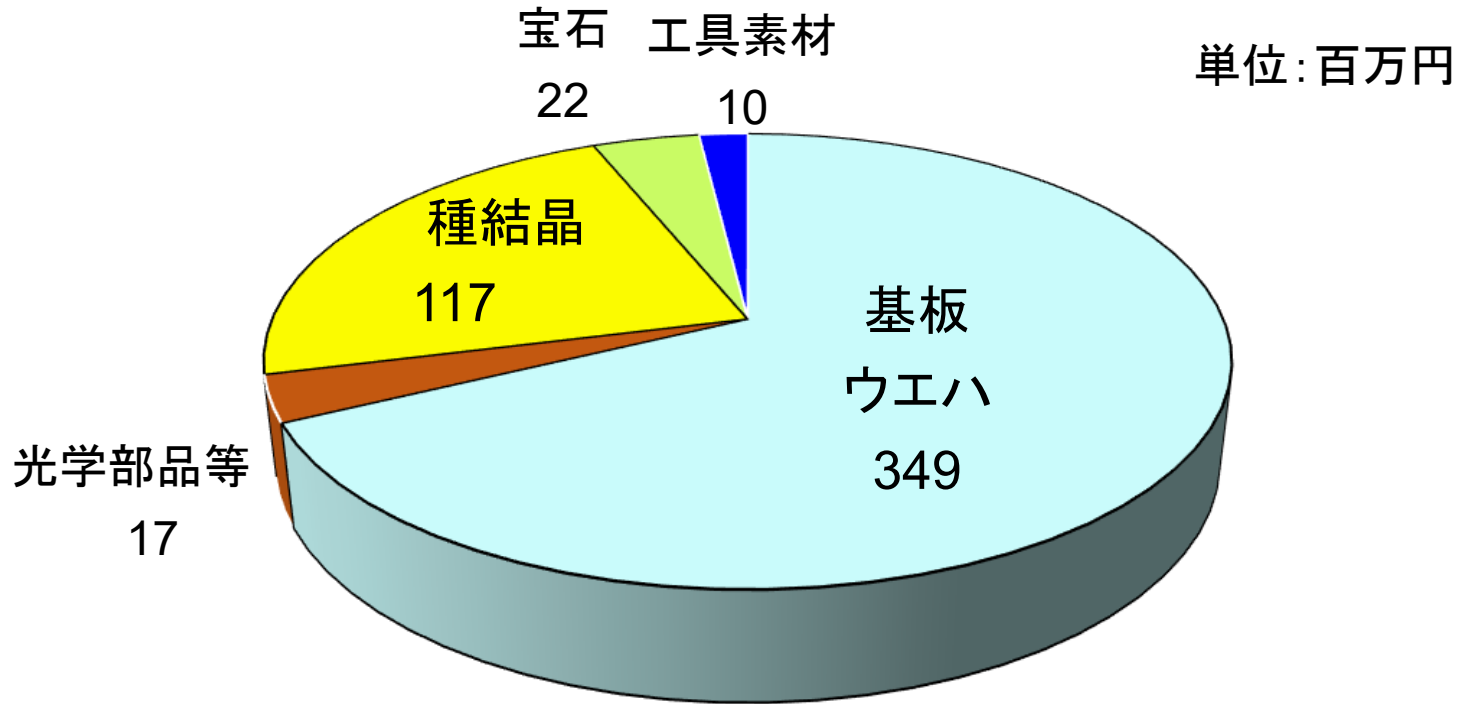
# 業績の推移

- SFD Indiaの輸入ライセンス取得の遅れで、インドでの種結晶販売がほとんどできず。
- 在庫製品の評価損で大幅な経常損失となった。



売上が不振で、各種の節減対策を実施したが  
減損損失等で大幅な赤字

# 2026年3月期の分野別連結売上



種結晶をインドで販売できず、売上比率が大幅に低下した。

# 資金調達状況と投資状況

◆2026年3月期累計で707百万円の資金調達を実施

(百万円)

	2026年3月期				
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第4四半期 実績	年度累計 実績
新株予約権による ファイナンス	52	46	0	609	707
借入	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	52	46	0	609	707

◆第2四半期までは新株予約権の行使が少なく、設備投資等を遅らせるとの判断を行った。

◆第4四半期に6億円以上の調達ができしたが、この資金は保留して、2027年3月期以降のファイナンスと合わせ使用する計画

# 財務状況と投資実績

## 2026年3月31日現在の財務状況

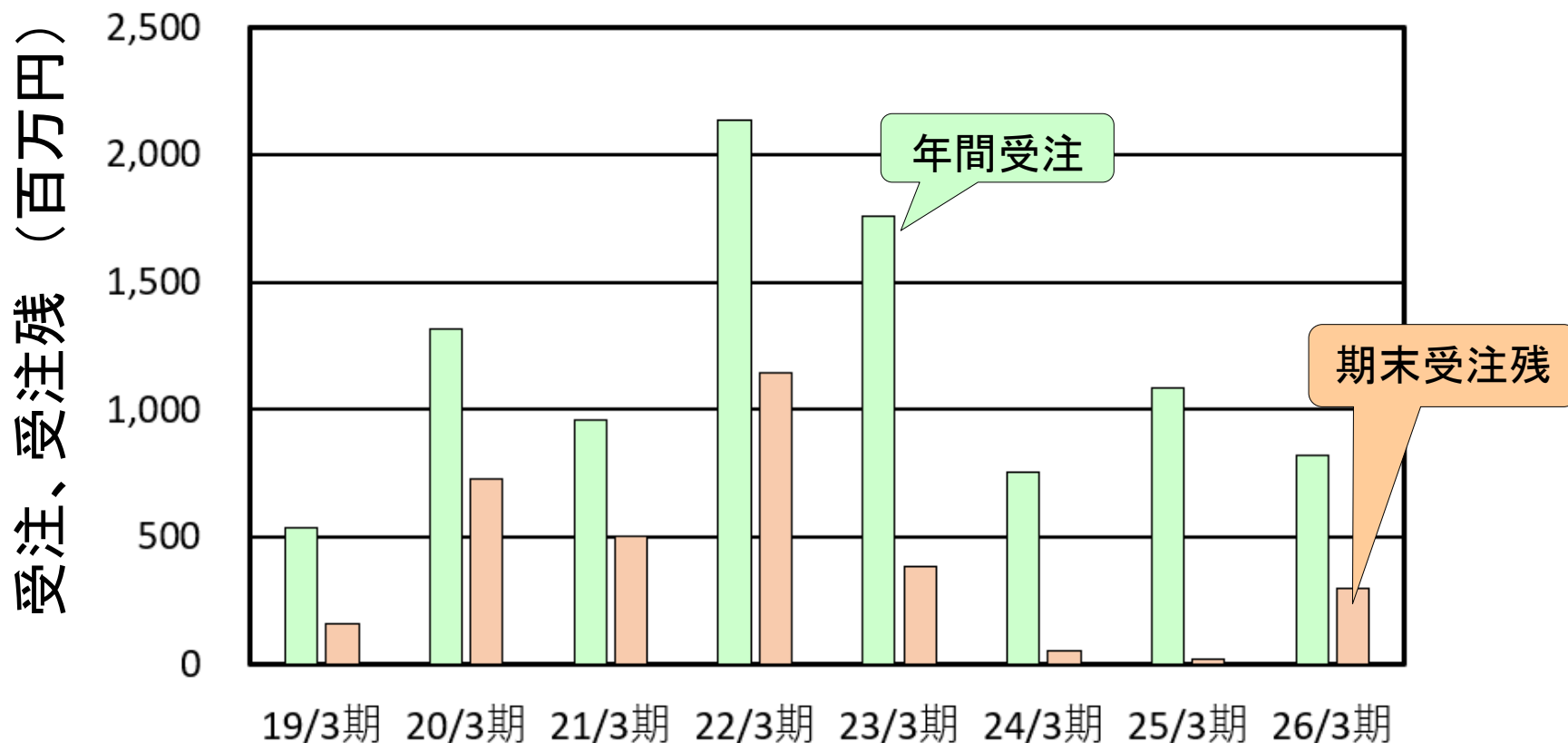
現預金	825百万円
有利子負債	470百万円
自己資本	1,709百万円
自己資本比率	68.10%

## 2026年3月期実行の主な設備投資

投資内容	金額	投資対象	導入時期
	(百万円)		
基板関連増産投資	90	横江工場	2024年11月～2025年11月
ウエハ関連開発投資	58	開発センター	2025年4月～2026年1月
宝石ビジネス基盤構築	250	SFD、SFD India SFD Antwerp	2024年12月～2025年10月

- ◆低抵抗基板増産、研磨設備増強等の基板関連投資と、大型ウエハ関連開発に投資
- ◆連結子会社3社の設立に伴うビジネス準備

## 受注及び期末受注残の推移



- ◆受注は前期に比べ減少したが、基板等は増加した。
- ◆2026年1月に種結晶のインドの大ユーザーから5か月の受注を獲得し、2026年3月から出荷を開始

## 2) 事業環境

# 全般の状況

- ◆2023年3月期第4四半期から顕在化したLGDの価格低下と生産方式の変化による種結晶市場の大幅な変化により、種結晶売上が3年間連続して低迷した。
- ◆基板・ウエハはダイヤモンドデバイスの世界的な開発の進展により、2024年3月期から3期連続で売上が増加した。当社が発売してきた各種の新製品が、売上に貢献している。
- ◆売上が低迷したことから、2025年3月期に続き1,066百万円の減損損失を計上したこと等により、2,415百万円の純損失となった。
- ◆輸出貿易管理令改正の件で、経産省より2024年5月に嚴重注意を受け、規程類の整備や組織改定を行った。また、2025年5月の再度の改正により、ダイヤモンドへの規制は一層厳しくなったが、これに対応して輸出を続けている。

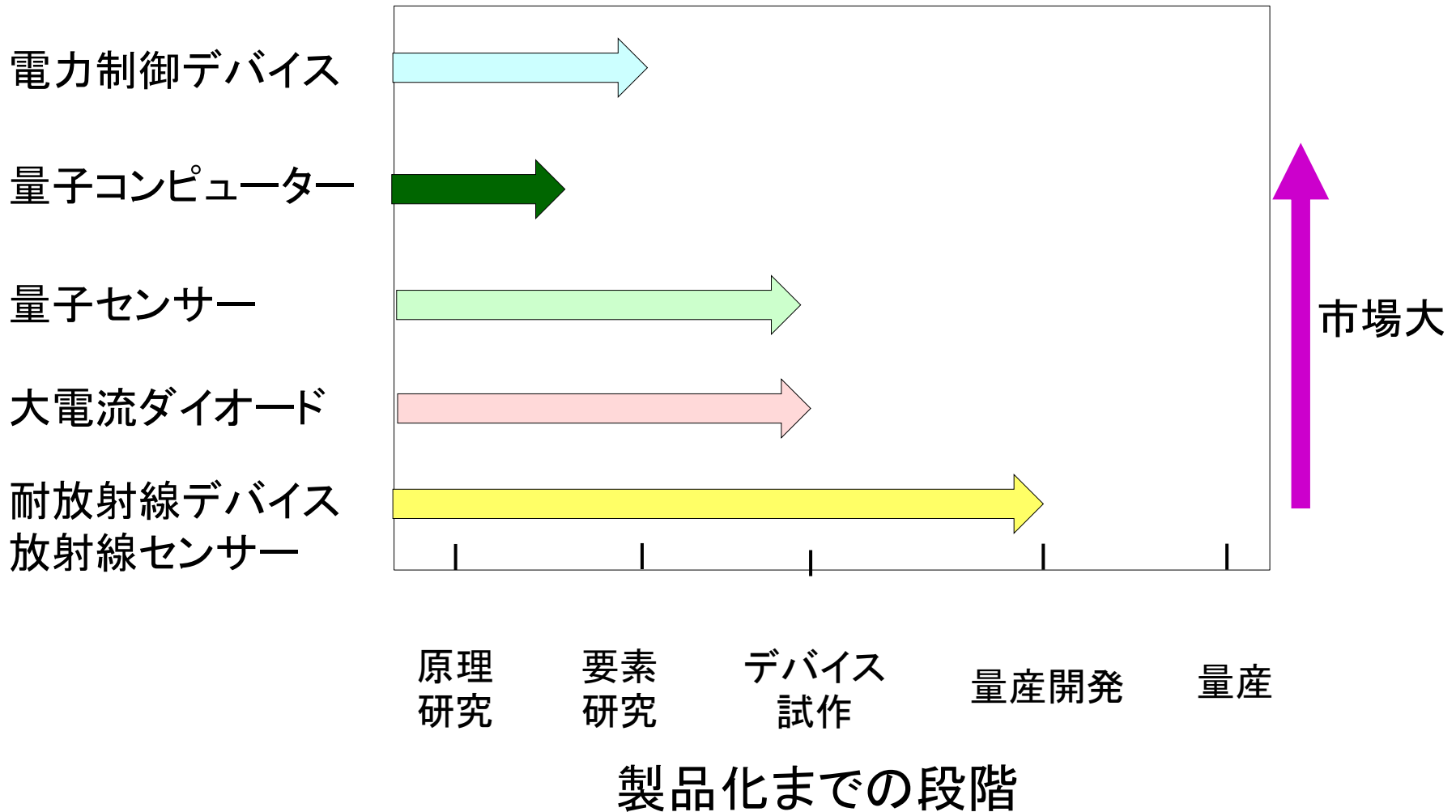
## 全般の状況(続き)

- ◆大型ウエハ開発の端緒となる1インチ単結晶ウエハを発売。  
開示したロードマップに沿って2インチモザイクウエハ開発を進めたが、当該年度末までには開発できなかった。開発を継続し、2026年5月にモザイク結晶が完成した。
- ◆株式会社本田技術研究所とデバイス用素材開発の共同研究を行う意向確認書を締結。2026年8月までに正式な共同研究契約を締結することを目指している。
- ◆種結晶の販売と原石から宝石への加工を行う目的で設立したSFD Indiaが、事務所立ち上げの遅れ及びそれに伴う輸入ライセンスの取得遅れ、さらには経産省の輸出管理上の指導もあり、種結晶の売上ができなかった。
- ◆LGD分野での商品の多角化を推進するため、宝石製造・販売の子会社としてSFDとSFD Antwerpが活動したが、十分な売上を上げることができず、SFDはEDPが吸収合併した。

# デバイス開発の世界情勢

- ◆日米欧豪にデバイスのベンチャーが登場し、公的な支援を得つつ、実用デバイスの開発を活発に進めている。
- ◆最終目標の一つであるパワーデバイス等への実用化には、基礎的な開発が残っているが、**大型ウエハ開発の先行**によって、デバイス技術の開発促進が望まれる。デバイス構造を意識した素材開発が必要
- ◆基礎的な研究課題が残っており、これを支えるためには多様な基板、ウエハが必要。当社はこれを支える素材メーカーとして、頼られる存在
- ◆量子デバイスの研究開発も、世界各地で進んでおり、このために基板の高度化が要求されている。特別な面方位の基板や高度な評価技術が必要

# ダイヤモンドデバイス開発の状況と市場規模



一部デバイスは量産の検討が始まっている

# 種結晶ビジネス市場

- ◆インド市場では、大型の種結晶を成長させ、多種類のサイズの宝石を切断する方式が、大手ユーザーにおいて普及した。この方式の種結晶はほぼ自家製となった。
- ◆個別サイズの種結晶を成長する方式は、インド以外はほとんどこの方式で、インドでもたくさんの企業が実施。この種結晶では、インドや中国製種結晶との競合がある。
- ◆当社は20x20mmまでの個別サイズの種結晶を販売しており、以下の特徴がある。
  - ①個別サイズでは最も大型の種結晶ができる。
  - ②でき上がる宝石の品質が最も高い。
  - ③品質及び量産の安定性を確保できる。

# LGDBizネス分野の状況

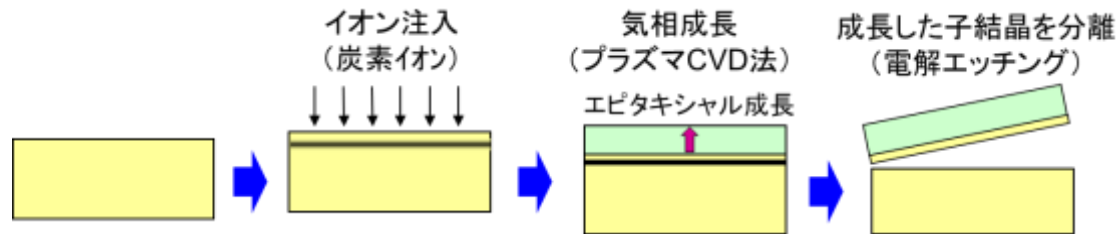
- ◆ LGD分野は依然として早いスピードで拡大し、既に30%以上のシェアと報道されている。価格の低下はさらに進んでおり、種結晶価格への値下げ要求も厳しい。
- ◆ 日本は世界の情勢とは異なっており、依然としてLGDの売上は数%以下とされている。国内では拡販の余地はあり、販売体制の確立を急ぐ。
- ◆ SFDによる営業の結果判明したJapan Made Diamondへの期待は、非常に大きい。当社原石を生かす宝石や宝飾品の新デザインを開発し、積極的にビジネスチャンスを作る。

### 3) 当社の特徴と強み

# 当社の強み(1)

## ◆薄板ダイヤモンドの量産技術

イオン注入を使う分離技術で、薄板を直接作製  
複数の単結晶を接続するモザイク結晶技術  
産総研の基本技術を使い、特許の独占実施権



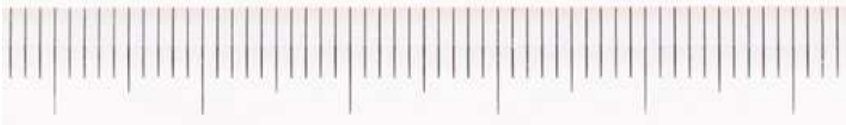
分離して得られた22x22mmモザイク結晶

## 当社の強み(2)

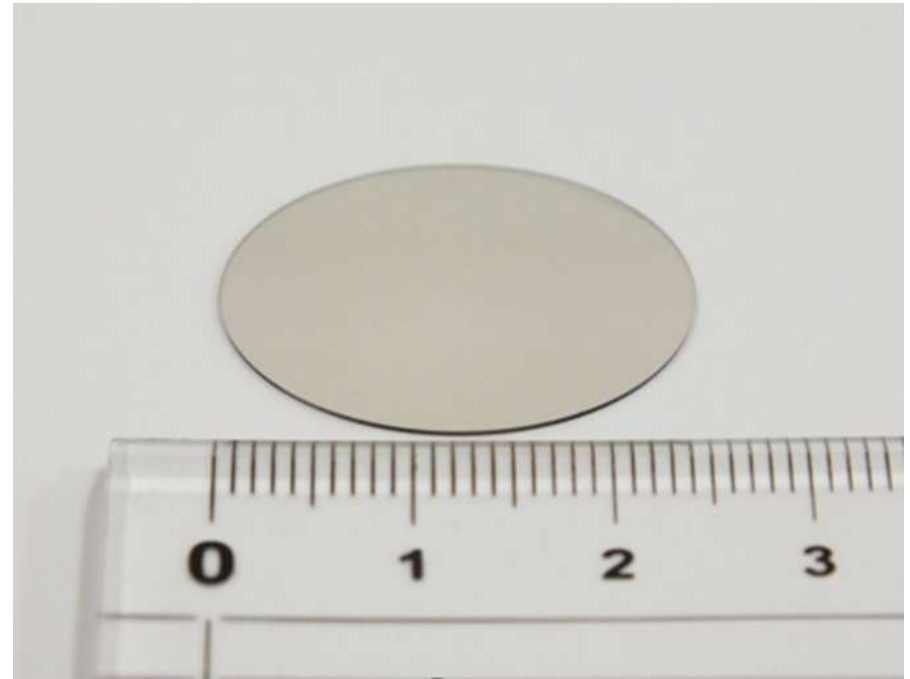
### ◆単結晶の大型化に向けての技術力

2~4インチモザイクウエハへ対応する技術戦略

30x30mm単結晶



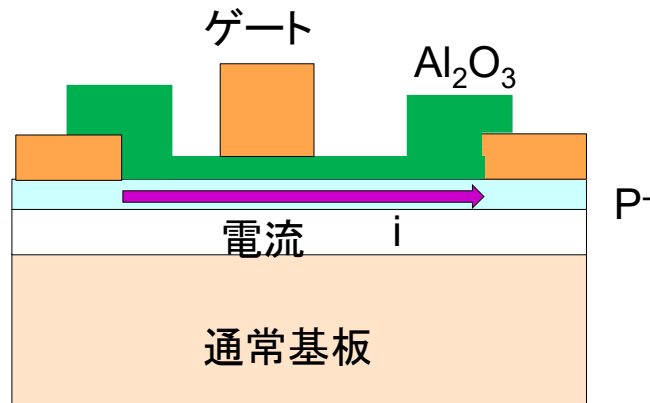
1インチ単結晶ウエハ



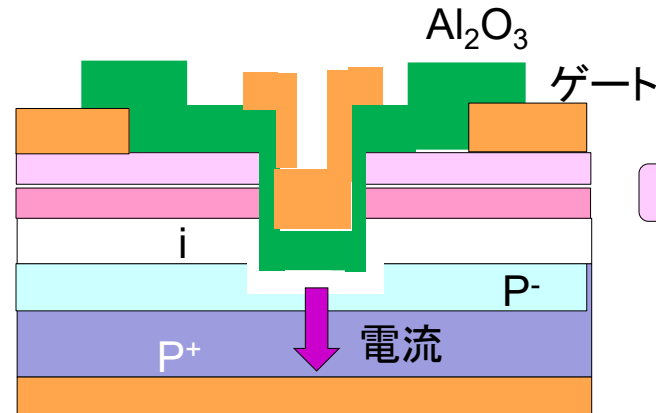
世界最大のダイヤモンド単結晶を有し、  
初のインチサイズの単結晶ウエハを発売

# 多様なダイヤモンドデバイスへの当社の製品

## 横型デバイス



## 縦型デバイス



Nドーピング層  
高移動度 p-エピ層

i層エピ

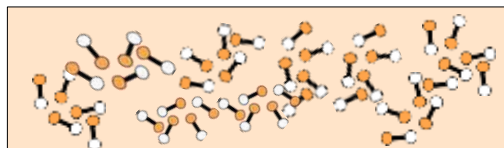
高移動度 p-エピ層

i層エピ

高B濃度 自立基板

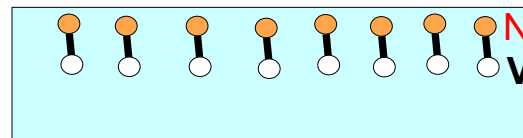
## 量子デバイス

高N-V密度  
→量子センサー



高Nドーピング基板

配列N-V  
→量子コンピューター



低N(111)基板

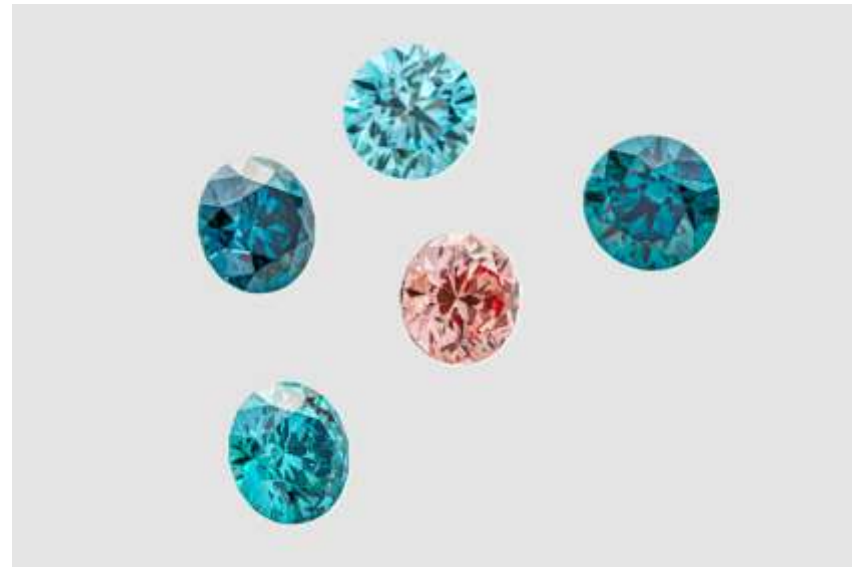
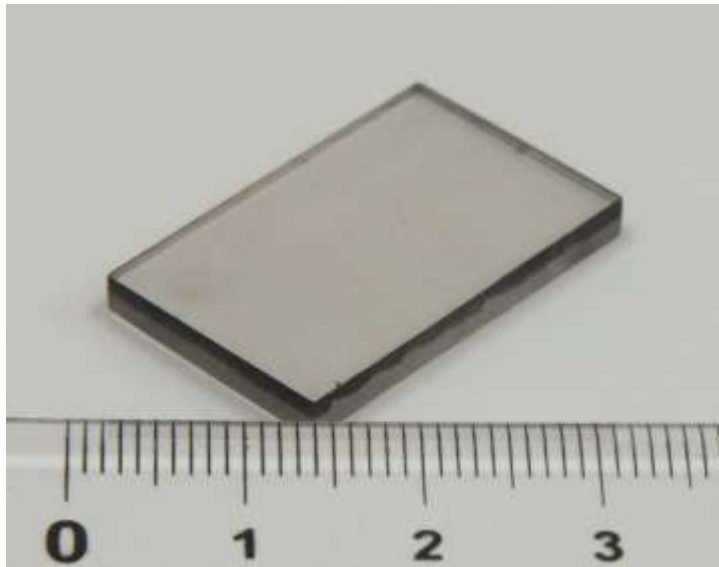
# 当社のダイヤモンドデバイス開発用の製品

多様な応用展開に向け、各種の基板・ウエハ・エピ層を商品化

開発分野	製品名	内容
基礎研究用基板	小型単結晶基板	1X1～9x9mm単結晶基板
	大型単結晶基板	10x10～30x30mm単結晶
	オフ角基板	基準面から0～5° 傾斜した基板
横型デバイス用基板	高品質基板	FWHM<30arcsecの欠陥が少ない基板
	低B濃度エピ基板	高移動度p <sup>-</sup> エピ層付き基板
パワーデバイス用基板	低抵抗基板	高B濃度p <sup>+</sup> 自立基板 (<13x13mm)
	高B濃度エピ基板	高B濃度p <sup>+</sup> エピ層付き基板 (<18x18mm)
量子デバイス用基板	(111)基板	窒素濃度<8ppm
	低N濃度(111)基板	窒素濃度<0.5ppm
	高N濃度基板	窒素濃度10～30ppm
各種エピ層	p <sup>-</sup> /p <sup>+</sup>	低B濃度エピ層/高B濃度基板
	i層	高純度エピ層 N<0.05ppm
量産テスト用ウエハ	1/2インチ単結晶ウエハ	12.5mm Φ x0.25mm
	1インチ単結晶ウエハ	25mm Φ x0.3mm
	2インチモザイクウエハ	50mm Φ x0.3mm (2026年10月発売予定)

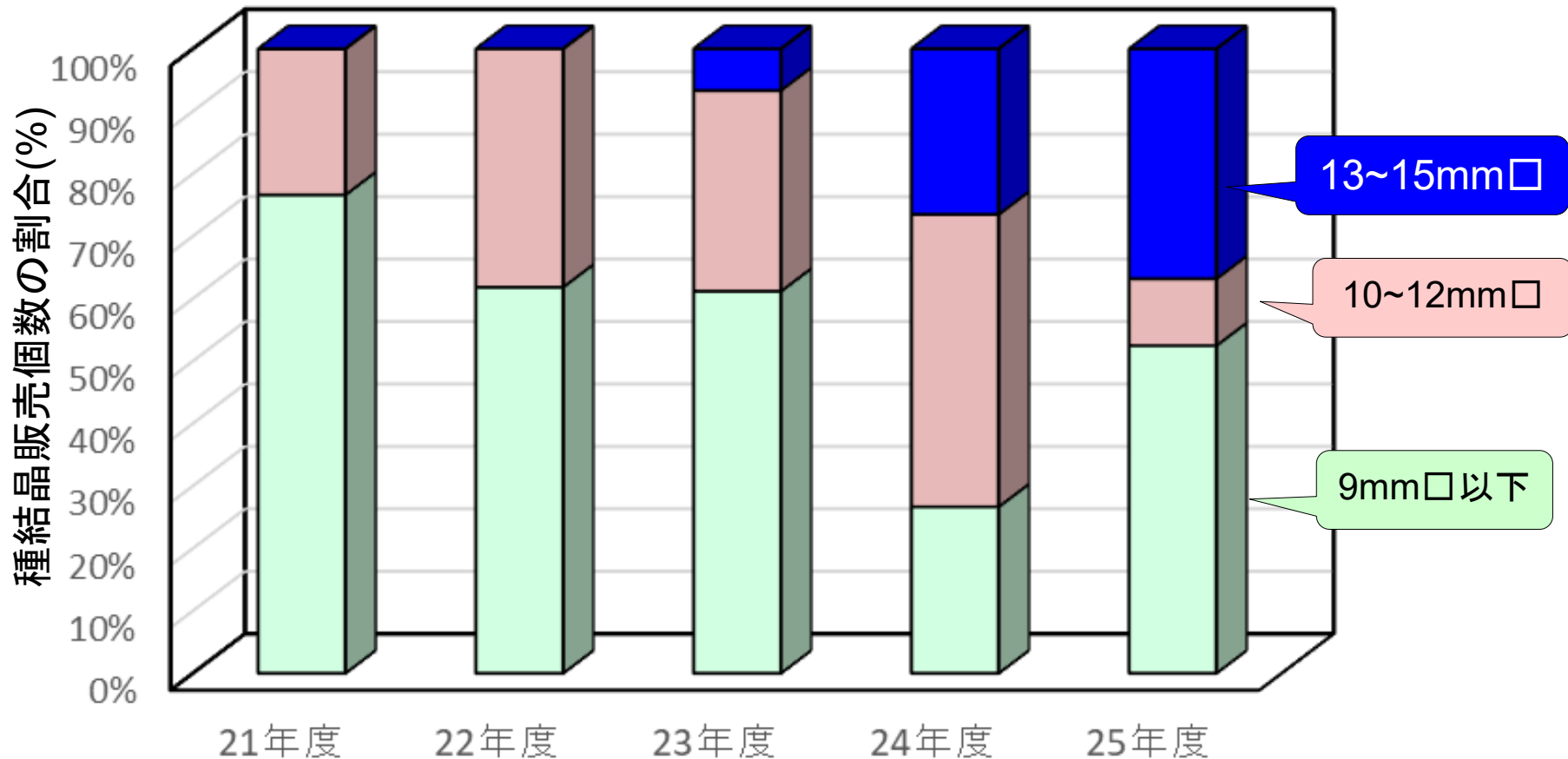
## 当社の強み(3)

- ◆LGD分野でも大型結晶は強みを発揮
- ◆半導体材料に必要な不純物や欠陥の制御に関する知見を豊富に保有している。



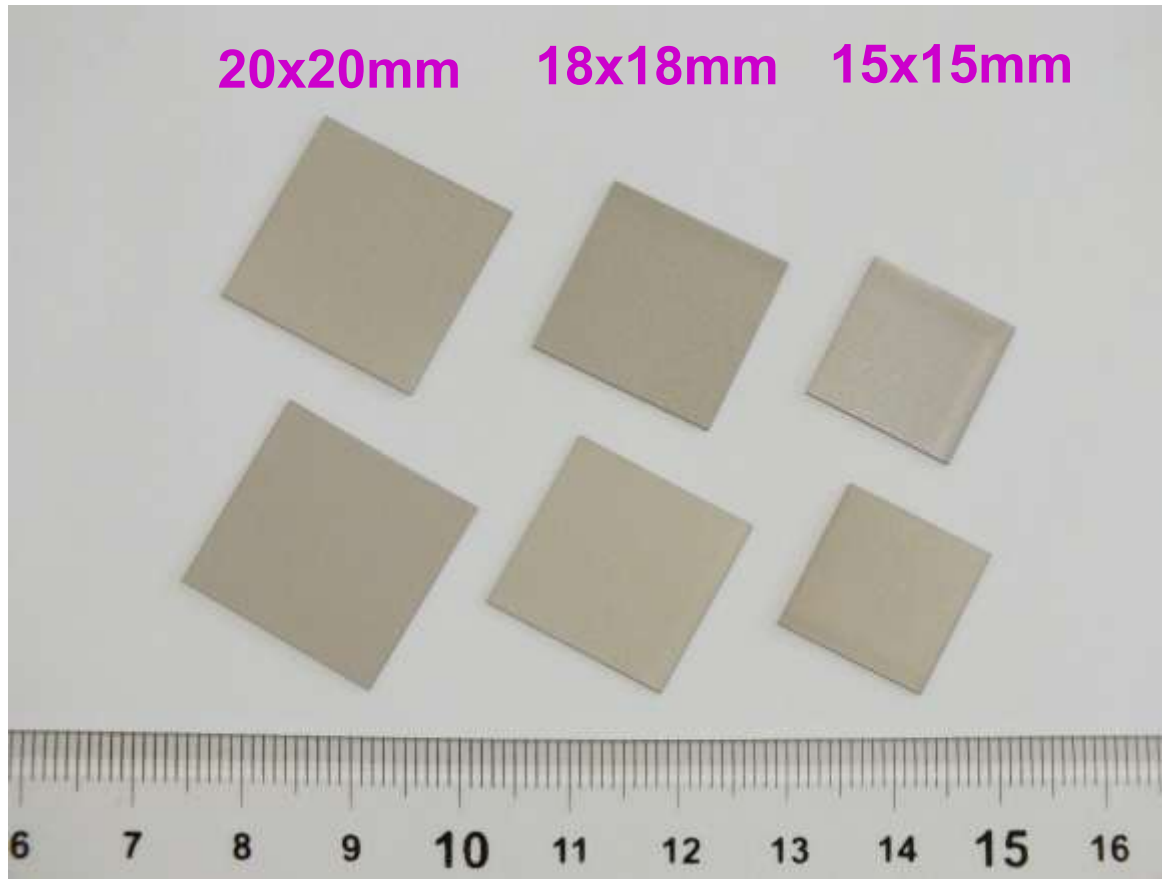
# 当社の種結晶ビジネスの状況

インド顧客は大型種結晶からの複数ルース製作方式に転換  
大型宝石への移行が進み、当社の大型種結晶販売は増加傾向



# 大型種結晶を発売しました

当社は2026年5月25日に、16x16mm～20x20mmの  
大型種結晶を発売しました。



## 4) 中期経営計画（成長戦略）

# 本年度立案の中期経営計画の位置づけ

- ◆3年間の大幅な売上減少の回復が最大の課題。  
以下の2つの方針で、EDPの第2の創業との位置付けを維持する。
  - ①デバイス用ウエハ等の市場を創成  
ロードマップに沿った2～4インチウエハの開発を進める。  
各種デバイス開発に必要な素材を揃える。
  - ②種結晶ビジネスの再興と宝石等の販売拡大  
インドを中心に種結晶営業を軌道に乗せる。  
Japan Made Diamondのブランド化を推進する。
- ◆3年間大幅な赤字を継続しており、それからの回復が急務である。売上拡大とともに、これまで進めてきた節減策を継続し、コスト体質の大幅な改善を行う。

# ダイヤモンドウエハの戦略

- \* ダイヤモンドデバイスの製作コスト削減に寄与する4インチウエハの実用化を目指し、長期的な開発を進める。
- \* 開発中の2インチ(50mmΦ)モザイクウエハを、本年度下期にも製品化する計画
- \* 単結晶サイズ拡大開発を今後も継続し、50x50mmを2028年3月までに開発し、その結晶を4個接続し、4インチモザイクウエハを開発する。
- \* その他に、大電力制御用パワーデバイスに必須な縦型デバイス構造を実現する低抵抗ウエハや、量子デバイス用の高品質ウエハの開発を進め、ダイヤモンドデバイス用素材の総合メーカーを目指す。

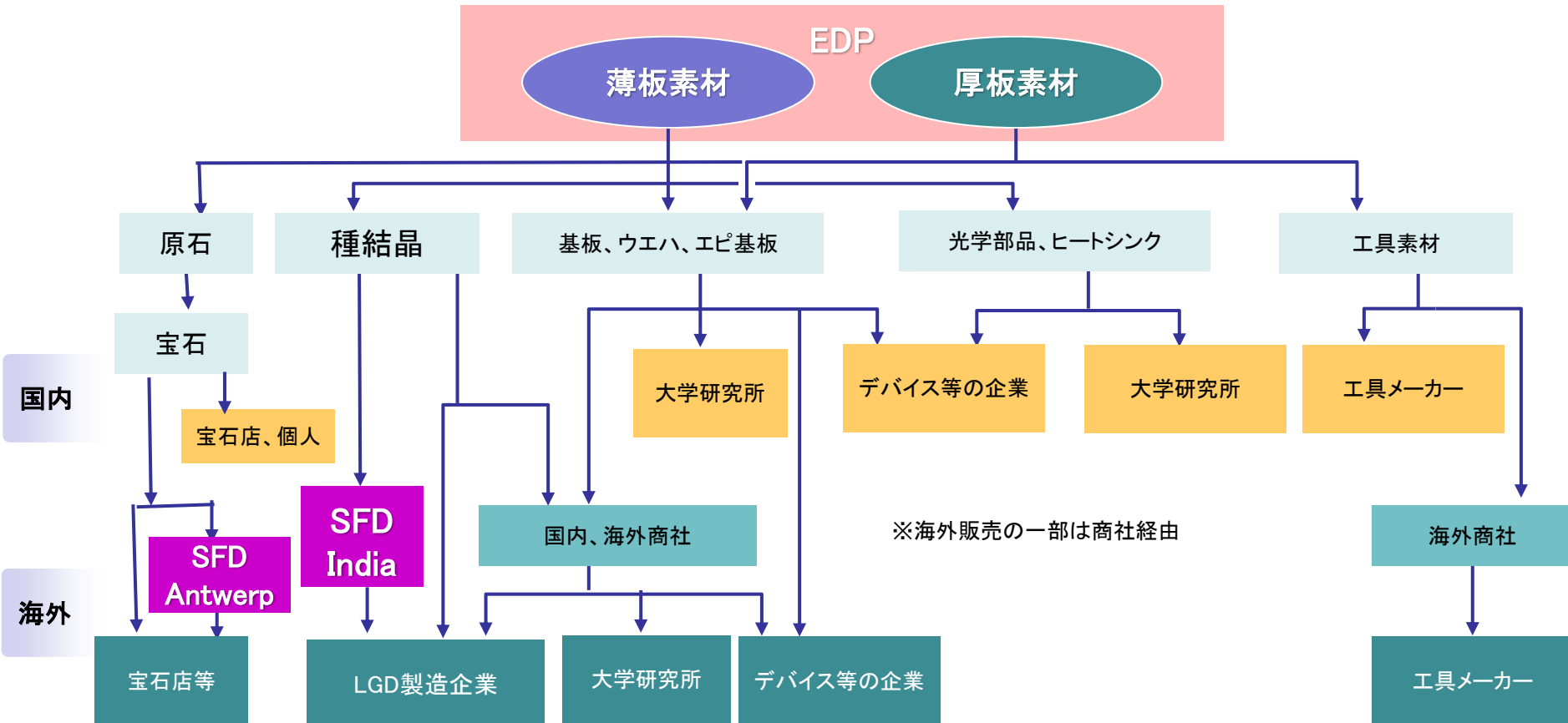
## LGD関連ビジネスの進め方

- ◆既存ビジネスである種結晶は、SFD Indiaの活用も進めて、情報収集を徹底し、新たなユーザーを開拓して売上の回復を図る。
- ◆宝石や宝飾品のサプライチェーンを構築し、当社の原石を生かした新規デザインの製品を販売する。
- ◆既に販売を開始した宝飾品販売企業等をグループ化し、Japan Made Diamondのブランド化を目指す。  
SNSの利用等の販売の新しい手法を取り入れ、販売チャンネルを多重化する。
- ◆宝飾品ばかりでなく、家具、食器や記念品等、幅広い適用分野を積極的に開拓する。

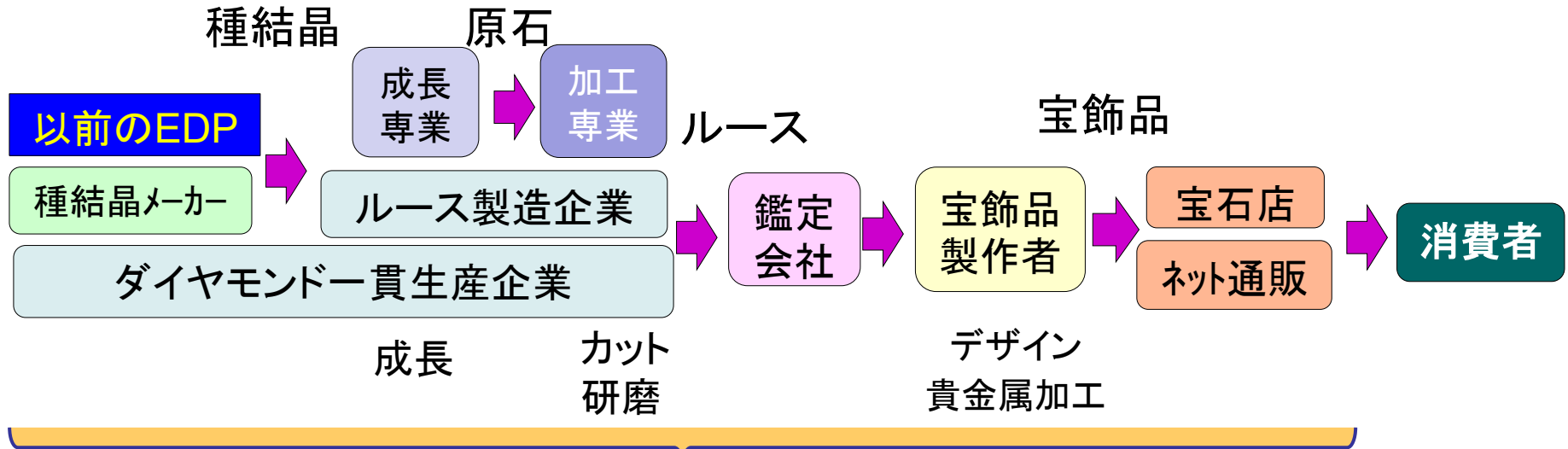
# 当社の事業フロー

▶ LGDの元となる種結晶をはじめとした主要製品を製造し、LGD製造企業や大学研究所、デバイス等の企業へ販売

## 事業フロー



# LGDのサプライチェーンと当社の位置づけ



- ◆気相合成のLGD製造は、多数の企業が参加
- ◆付加価値は下流の商品を販売することで高まる。



宝石や宝飾品の販売経験者をSFDに採用  
SFDを吸収合併し、重複した間接費の削減を行う。  
SFD IndiaやSFD Antwerpの業務を見直し、体制を見直す。

# 中期経営計画の売上、損益

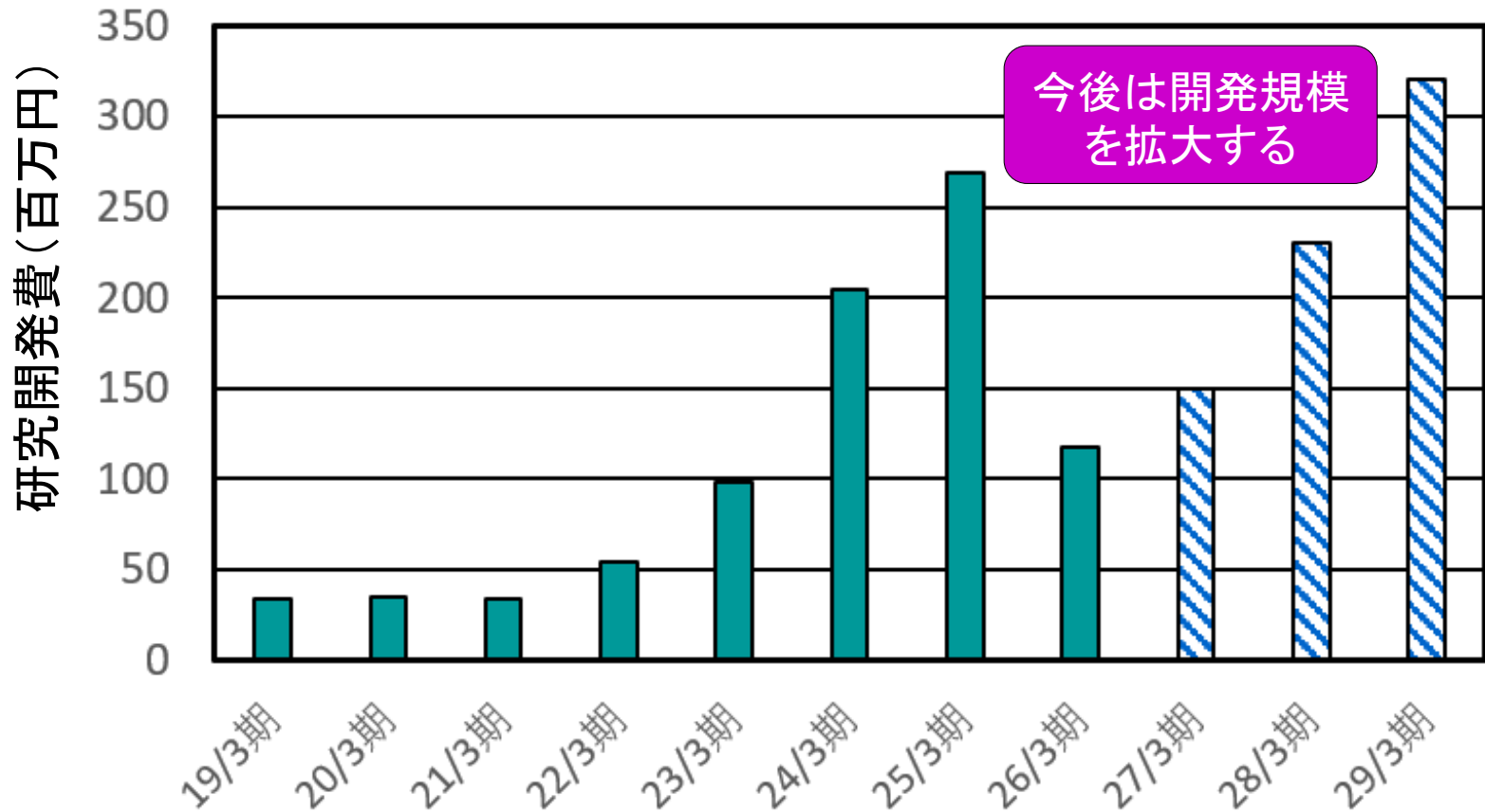
(百万円)

		2026年3月期 実績【連結】	中期経営計画【連結】		
			2027年3月期	2028年3月期	2029年3月期
売上高		516	1,100	1,530	2,080
LGD関連	種結晶	117	527	550	550
	宝石等	22	73	180	350
デバイス関連		349	463	750	1,100
その他		27	37	50	80
営業利益		△1,360	△283	△5	195
経常利益		△1,341	△189	39	189
当期純利益		△2,415	△195	4	132

注) △は損失を示しております。

- ◆ デバイス関連製品市場の急速な立ち上りに対応する。
- ◆ 種結晶から宝石へのビジネス転換を進める。

## 研究開発費の実績と計画



- ◆24/3及び25/3期は、生産部の原石開発の費用を開発費として計上した。26/3期は本来の開発費に戻った。
- ◆今後はデバイス関連製品の開発費が大幅に増加する。

# 投資計画

- ◆2インチ～4インチへとウエハサイズを大型化し、各種のダイヤモンドデバイスの実用化を後押しする。このために必要な新規の成長装置、研磨装置等を購入する。
- ◆この投資は、NEDO等の公的な支援や、連携する企業からの支援を含んで実施する計画。ユーザーが必要な素材を実現するために、当社とつながりのあるユーザーを組織化し、ダイヤモンドウエハの規格化(国際標準化)を目指し、評価基準の作成を進める。
- ◆宝石、宝飾品の確実な売上を確保するため、これらのサプライチェーンの構築と、内外での営業体制の整備を行う。宝石や宝飾品の新規デザインを行える体制を構築し、Japan Made Diamondのブランド化を推進する。

# 今後のEDPグループの資金調達と投資内容

## 1.資金調達

6月16日付で以下の資金調達を開始

- ①第三者割当増資:2社に472,500株を割り当て約5億円を調達
- ②新株予約権による調達:新株予約権数:30,000個  
(株式数;3,000,000株)を発行(調達予定額:約34.6億円)

## 2.調達資金の使用計画

具体的な用途	金額(百万円)	支出予定時期
① 2インチ単結晶ウエハの開発投資	670	2026年8月～2028年3月
② 4インチモザイクウエハの開発投資	810	2027年10月～2029年3月
③ 2インチ低抵抗ウエハの開発投資	830	2027年1月～2028年10月
④ ラボグロウンダイヤモンド原石増産 及び宝石販売体制の確立	800	2027年7月～2029年5月
⑤ 開発並びに製造工場の増、新設	855	2027年8月～2028年12月
合計	3,965	—

## 5) まとめ

## 今後の展開

- ◆一昨年度に打ち出した「**第2の創業**」の方針を堅持して、早期に成長軌道に乗せる。
- ◆共同研究を実施する予定の本田技術研究所だけでなく、世界中のダイヤモンドデバイス開発機関と連携し、市場が必要とするウエハ等の開発を積極的に進める。
- ◆種結晶の売上を回復するため、SFD Indiaを含んだ営業体制を再構築する。
- ◆宝石や宝飾品の販売を軌道に乗せるため、サプライチェーンの構築を早急に行う。Japan Made Diamondのブランド化を積極的に展開する。
- ◆これらのために必要な資金調達を行う。

ビジネス転換によって、第2の成長期へ！

# 各分野の成長戦略のまとめ

## 基板・ウエハ分野の戦略

- \* 世界の各種デバイス開発を後押しする基板、ウエハの実用化
- \* 2インチモザイクウエハを26/10月までの製品化を目指す
- \* 4インチウエハ実用化を目指す開発をスタート
- \* 関連企業、機関との連携

## LGD分野の戦略

- \* 大型結晶を保有する強みを生かして種結晶、宝石を販売
- \* 宝石、宝飾品のサプライチェーンを早期構築する。
- \* Japan Made Diamondのブランド化を推進する。

## 基盤技術の継続的開発

- ・単結晶サイズの大型化(28/3に50x50mm開発を目標)
- ・欠陥の制御により、量子デバイス用基板やカラーダイヤ製品化

基盤技術と製品化技術をバランスよく進める

# モニタリング指標

## 事業KPIs

ダイヤモンド成長能力: 21万カラット

最大ウエハサイズ: 38x38mm

一人当たりの売上高: 7.1百万円

研究開発費比率: 8.3%

## 財務KPIs

連結売上高変化:  $\Delta 42.8\%$

対前年比

経常利益率:  $\Delta 259.6\%$

ROE:  $\Delta 94.3\%$

自己資本比率: 68.1%

特記した以外の数値は2026年3月期実績

# リスクと対応策等

事業上のリスク	影響度	現状認識	リスク/見通し	対応策
貿易管理令への対応を誤る	大	2025/5の法律改正の対応を完了し、組織や各種ドキュメントも整備を完了している。	法令の理解不足や、手続きが不十分で、法令違反の処罰を受ける。	社内規定の遵守、法令の改正情報の早期入手、当局やコンサルタントとの確実なコミュニケーション。
デバイス開発の進捗が遅れる	大	パワーデバイス、量子デバイス等の実用化を目指す開発が進行中	ダイヤモンドデバイスの応用市場が小規模。あるいは、期待した性能に達しない。	多数のユーザーと連携し、応用を絞らない。必要とされるウエハ、エピ等を揃える。
種結晶売上が回復しない	大	大手ユーザーは生産を増強中。中小のユーザーの発掘も進行中。	可能性は低いですが20x20mm以上の大型品へ移行。低品質種結晶で高品質宝石が製作できるようになる。	供給を開始した20x20mm以上の形状の量産準備を進める。
藤森社長への依存	中	既に生産、開発は担当部署へ権限を移譲。それでも業務量過多が継続。	病気などにより執務が不可能になる。社外との人的な関係が崩れる。	代表取締役2人体制。総務、企画関係の要員を確保する。
人材確保が十分にできない	中	日本においては中小企業の人材確保は、極めて厳しい状況。特に技術者の不足の影響が大きい。	共同研究等の対外関係が維持できなくなる。ガバナンス関連の対応が不足する。	人材募集方法を多角化。全般に給与を上げ、社外発表頻度を上げ、会社の魅力をアピール。

主要なリスクのみを記載しております。

他のリスクについては有価証券報告書の「事業のリスク」をご参照ください。